人生の節目節目にお祓いを受けましょう。

厄祓い

日本には古来から人生の節目を「厄年」として忌み慎む習慣があります。厄年とは一生のうち何らかの厄難に遭遇する恐れが多い 年齢をいい、医学の発達した現代においてもなお、万事に慎まねばならない年齢として人々に意識されています。

厄年とする年齢は、一般には数え年で男性は25歳、42歳、61歳女性は19歳、33歳、37歳です。中でも男性の42歳と女性の33歳は「大厄（たいやく）」です。厄年の前後も「前厄（まえやく）」「後厄（あとやく）」とされ、特に忌むべき年齢といわれています。厄年は現代の生活にもあてはまる人生の転換期であり、肉体的 にも精神的にも調子を崩しやすい年齢といえます。厄年の方はなるべく早く厄祓いのお祓いを受けましょう。お祓いにかかる時間は通常20分です。

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年です。

令和8年 厄年一覧

	前厄	本厄	後厄
男性	平成15年生 24歳 ひつじ	平成14年生 25歳 うま	平成13年生 26歳 へび
	昭和61年生 41歳 とら	昭和60年生 42歳 うし	昭和59年生 43歳 ねずみ
	昭和42年生 60歳 ひつじ	昭和41年生 61歳 うま	昭和40年生 62歳 へび
女性	平成21年生 18歳 うし	平成20年生 19歳 ねずみ	平成19年生 20歳 いのしし
	平成7年生 32歳 いのしし	平成6年生 33歳 いぬ	平成5年生 34歳 とり
	平成3年生 36歳 ひつじ	平成2年生 37歳 うま	昭和64年・平成元年生 38歳 へび

長寿祝（年祝）

家族が長寿であることほどおめでたいことはありません。「還暦」をはじめ、下表の年齢に達したことを神様に報告感謝して、一家そろってお祝いしましょう。

令和8年長寿 年齢早見表（数え年） 男女共通

還暦（かんれき）	昭和41年生（61歳）	再び生まれた年の干支に還る
古希（こき）	昭和32年生（70歳）	「人生七十古来稀也」杜甫の曲江詩
喜寿（きじゅ）	昭和25年生（77歳）	喜の略字が「七十七」
傘寿（さんじゅ）	昭和22年生（80歳）	傘の略字が「八十」
米寿（べいじゅ）	昭和14年生（88歳）	米の字を分解すると「八十八」
卒寿（そつじゅ）	昭和12年生（90歳）	卒の異体字「卆」が「九十」
白寿（はくじゅ）	昭和 3年生（99歳）	百の字から一字をとれば「白」

七五三詣

古く平安時代から「男女三歳で髪置」「男女五歳で袴着」「女子七歳で帯解」のお祝いがあり、これが七五三の由来です。数え年で行われておりますが、現在では子供の体調に合わせて満年齢でも行うようになりました。ご家族そろって子供の成長を感謝し、これからの無事成長を神前にて祈願しましょう。

		数え年	満年齢
男性	3歳	令和6年生まれ	令和5年生まれ
	5歳	令和4年生まれ	令和3年生まれ
女性	3歳	令和6年生まれ	令和5年生まれ
	7歳	令和2年生まれ	令和元年生まれ

成人式・成人奉告祭

二十才になった男女が八幡さまに無事に大人の仲間入りができたことを奉告します。古くは、武家では元服式公家では初冠の儀が行われました。人生の節目、門出の時に成人奉告祭のご祈祷を受け、志を立て、今後の健康と活躍を祈願しましょう。

令和8年 成人祝 男女共通

	数え年	満年齢
男 女	平成19年生まれ	平成18年生まれ

十三詣・十三詣祈願

「十三詣」とは、「七五三詣」が幼少期の子供の”身体・成長感謝”の祈願であるのに対して、数え13歳の学年齢期における人格形成・健全育成を願っての「心身息災」や、学業向上の「知恵授け」として行われる御祈願です。古来の風習では4月13日が十三詣のご縁日でしたが、当宮では一年を通じて御祈願いただけます。20歳の「成人式」に到たるまでの節目として「厄年祓い」的意味合いがあります。

十三詣

	数え年	満年齢
女	平成26年生まれ	平成25年生まれ

新学期の節目にあたる春休みから4月下旬頃に新しい中学校の制服や振袖などで御祈願される方が多いようです。